

## 平成30年春の「関西を歩む会」 JR福知山線廃線敷-名塩～武田尾コース

土木建設系関西地区同窓会 前原 博（土木42年卒）

関西本部定例行事の「関西を歩む会」は、毎年春と秋に2回行っており、今年で14年目になります。3年前より関西の5つの学科同窓会が毎回交代して担当幹事を担うことになり、一巡したところでした。

土木系同窓会の事務局を今年から担当されることになった岩城氏（土木54）が宝塚市役所に勤務されており、その関係で西宮名塩～武田尾間のJR福知山線廃線敷（2016年から一般開放、西宮市管理）のハイキングコースが推薦されました。観光案内によると、このコースの廃線敷は延長4.7kmあり、途中でトンネルが6カ所あります。トンネルには照明設備はなく内部は暗いので足元を照らす照明用具は必携です。トンネル内の闇と、場所ごとに変わる前後の渓谷美とのコントラストが人気を呼び、身近なハイキングコースとして注目されています。

今年の春の「関西を歩む会」は、6月2日に実施することが決まりましたが、発案者の都合が悪くなり、当日の参加者は、高村、橋本、小金、前原の4名でした。当日の主な行程は、JR生瀬駅（10時15分集合）－〔一般道〕－廃線敷名塩側入口－桜の園〔亦楽山荘〕（昼食）－廃線敷武田尾側入口－〔一般道〕－武田尾温泉（足湯）－JR武田尾駅（14時頃解散）というものでした。

写真は西宮名塩側から廃線敷に入り500mほど進んだところにある北山隧道の入り口です。コースのレールは撤去されていますが、枕木は大部分が残されています。トンネル内の通行には懐中電灯が欠かせません。照明用

具を取り出してコースをたどりました。

コース中間の少し北よりのところに、武庫川を渡る第2武庫川橋梁があります。ランガー形式の鋼製トラスの橋です。そこを渡り、廃線敷を4分の3ほど進んだところの西の川側には親水公園が、東の山側には桜の園「亦楽山荘」があります。この桜の園は、水上勉作「櫻守」のモチーフにもなりましたが、桜博士と言われた笹部新太郎氏の研究林を宝塚市が公園として整備したものです。笹部新太郎氏は岐阜県北部の御母衣ダムで、水没する荘川桜（樹齢450年、現存2本）の移植を指導された方です。桜博士ゆかりの山荘が「亦楽山荘」ですが通常は閉鎖されています。

桜の園では時間があつたので新緑の山道を散策し、昼食をとりました。園内の山道は廃線敷とはちがって高低差があり、足の鍛錬になりました。残りの廃線敷を踏破し、行程終盤の武田尾温泉の足湯で休憩しても時間的には余裕がありました。好天に恵まれたことに感謝し、喉の渇きを潤して全員で帰路につき、春の「関西を歩む会」の行程を終えました。



北山隧道名塩側入り口